

JP D4S ファームウェアをバージョンアップされたお客様へのご案内

D4S のファームウェアを最新版 (C: 1.20) へバージョンアップすると、次の機能に変更および追加がありますので、使用説明書と併せてお読みください。

タイム撮影について (☎132)

タイム撮影では、シャッターボタンを押さないうまま 30 分経過しても、自動的に撮影を終了しなくなりました。タイム撮影を終了するには、必ず再度シャッターボタンを全押ししてください。

カスタムメニュー d3 [連続撮影コマ数] について (☎321)

[連続撮影コマ数] を設定しても、露出モードが S または M のときにシャッタースピードが 4 秒以上の場合は連続撮影のコマ数は制限されません。

カスタムメニュー e3 [外付けフラッシュ発光] について (☎327)

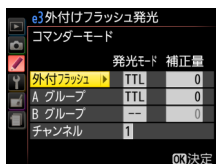
別売の外付けスピードライト SB-500 に対応しました。SB-500 を取り付けている場合、カスタムメニュー e3 [外付けフラッシュ発光] の設定項目として [コマンドモード] が選択できます。

■ コマンドモード

スピードライト SB-500 を主灯 (マスターフラッシュ) として、カメラから離れたその他のスピードライトで構成される補助灯 (リモート) グループをワイヤレス (アドバンスドワイヤレスライティング) で制御するためのモードです。主灯の SB-500 や 2 つの補助灯グループのスピードライトに、それぞれ発光モードと調光補正量 (または発光量) を設定できます。

[コマンドモード] を選ぶと、右のような画面が表示されます。マルチセレクターの ◀ または ▶ で項目を切り換え、▲ または ▼ で発光モードや補正量 (または発光量) を設定してください。

- 補助灯の配置位置などについては、SB-500 の使用説明書をご覧ください。



	発光モード	内容
外付フラッシュ	TTL	SB-500 は i-TTL 調光を行います。右側の [補正量] 欄で調光補正量を設定 (1/3 段ステップで ± 3 段) します。
	M	SB-500 はマニュアル調光を行います。右側の [補正量] 欄で発光量を選びます。
	--	SB-500 は発光せず、補助灯だけが発光します。ただし、撮影時にモニター発光を行えるよう、電源を ON にしておいてください。
A グループ	TTL	A グループの全ての補助灯が、i-TTL 調光を行います。右側の [補正量] 欄で、A グループの補助灯の調光補正量を設定 (1/3 段ステップで ± 3 段) します。
	AA*	A グループの全ての補助灯が、絞り連動外部自動調光を行います。右側の [補正量] 欄で、A グループの補助灯の調光補正量を設定 (1/3 段ステップで ± 3 段) します。
	M	A グループの全ての補助灯が、マニュアル調光を行います。右側の [補正量] 欄で、A グループの補助灯の発光量を選びます。
	--	A グループの補助灯は発光しません。
B グループ	B グループの補助灯について、A グループと同様の設定を行います。	
チャンネル	補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1 ~ 4 のいずれかに設定します。全ての補助灯のチャンネルを、ここで設定したチャンネルに合わせる必要があります。	

※絞り連動外部自動調光対応スピードライトの場合のみ発光します。

☑ コマンドモード時の調光補正と表示について

- コマンドモード時に、**☑** ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、[外付フラッシュ]、[A グループ]、[B グループ] のそれぞれの [補正量] に加算されます。
- [外付フラッシュ] を [TTL] にして、[補正量] を 0 以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に **☑** が点灯します。
- [外付フラッシュ] を [M] に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に **☑** が点滅します。

☑ コマンドモードについてのご注意

- 補助灯は、SB-500 の光がセンサー窓に入る位置 (通常はカメラより被写体に近い位置) に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、SB-500 の光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ ([TTL] 設定時) や他の補助灯の外部自動調光用受光窓 ([AA] 設定時) に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は 3 台程度が限度です。
- [外付フラッシュ] の [発光モード] を [-] にした場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中に SB-500 が少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低い ISO 感度、または小さい絞り (大きい絞り値) で撮影してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。